

平成31年版
視能訓練士国家試験
出題基準

厚生労働省医政局医事課

視能訓練士国家試験の改善報告書

1. 基本的考え方

- (1) 視能訓練士国家試験は、視能訓練士法に基づき「視能訓練士として必要な知識及び技能について」行われる。ここでの「必要な知識及び技能」とは、医師の指示の下で患者に対して両眼視機能の回復のための矯正訓練及びこれに必要な検査並びに眼科検査を行うのに必要な基本的事項である。
- (2) 近年、視能訓練士を取り巻く環境の変化や医療の進歩に伴い、視能訓練士に必要とされる事項が増加・高度化している。このような状況の下で、国民の健康及び安全に直結した業務を行う医療関係職種としての資質の維持・向上を図るためには、視能訓練士として特に必要不可欠な基本的事項を領域毎に明確化した上で、国家試験としてこうした基本的事項の修得状況を確認する必要があると考えられる。

2. 改善内容

- (1) 出題内容の見直し
教育の現況や医療の進歩に合わせ、視能訓練士国家試験出題基準における項目の追加・削除を行う。
- (2) 「必修問題（仮称）」の継続検討
視能訓練士として特に必要不可欠な基本的事項でありながら、五肢択一形式では易しくなりすぎる等の理由により出題が敬遠される事項がある一方、視能訓練士国家試験においては、医療の一翼を担う視能訓練士にふさわしい最低限度の知識及び臨床能力を有しているかを判断した上で合否を判定する必要があることから、こうした事項の具体的な内容を出題基準に明示した上で、「必修問題（仮称）」として出題を可能にすることが望ましい。導入にあたっては、別途高い合格基準を設定すべきであり、最低合格レベルを80%以上とすることが望ましい。なお、これらの問題は具体的内容を出題基準に明示して、受験者等に予め周知すべきである。

3. 今後の取扱い

出題基準の改善事項については、原則として平成31年(第49回)の試験から適用する。ただし、「必修問題（仮称）」の導入時期については、問題の作成を担う視能訓練士試験委員会において決定することとし、導入に際しては、受験者等に対し相当の周知期間を設けるべきである。

視能訓練士国家試験出題基準の作成について

1. 経緯

現行の平成25年版出題基準は平成22年10月より検討を行いとりまとめられたものである。

前回の出題基準作成から6年以上が経過し、現行の教育及び医療水準を踏まえた改定を行うため、平成28年10月、視能訓練士国家試験出題基準改定検討会を設置し、今般、改善に関する基本的な方向性についてとりまとめた。

なお、出題基準の改定に伴い、視能訓練士国家試験の改善についても検討を行い、一定の結論を得た。

今般とりまとめた出題基準は、必修問題（仮称）を除き、平成31年（第49回）の視能訓練士国家試験から適用する。なお、必修問題（仮称）の適用時期については視能訓練士試験委員会において決定することとする。

2. 委員

別紙

3. 会議開催状況

第1回 平成28年10月21日(金)

第2回 平成29年 1月13日(金)

第3回 平成29年 3月10日(金)

視能訓練士国家試験
出題基準改定検討会委員名簿(50音順)

○は座長

氏名

岡 真由美 川崎医療福祉大学

小林 昭子 東京医科大学病院

敷島 敬悟 東京慈恵会医科大学

南雲 幹 井上眼科病院

藤山 由紀子 国際医療福祉大学

牧野 伸二 自治医科大学

松本 長太 近畿大学

○ 三村 治 兵庫医科大学

横山 利幸 順天堂大学医学部附属練馬病院

視能訓練士国家試験出題基準の利用法

視能訓練士国家試験は、視能訓練士法に基づき「視能訓練士として必要な知識及び技能について」行われる。

その内容を具体的な項目によって示したのが、視能訓練士国家試験出題基準である。視能訓練士国家試験の妥当な範囲と適切なレベルを確保するため、視能訓練士試験委員はこの基準に拠って出題する。

なお、当該出題基準は学校養成所の卒業前の教育で扱われる内容の全てを網羅するものではなく、これらの教育のあり方を拘束するものではない。

1. 見出し〈章〉、見出し〈節〉、大・中・小項目に分類する。

(1) 見出し〈章〉は、視能訓練士学校養成所指定規則に定める教育内容とする。

(2) 大項目は、中項目を束ねる見出しとする。

(3) 中項目は、視能訓練士国家試験の出題範囲とする。

(4) 小項目は、キーワードとして、中項目に関する内容を分かりやすくするための事項とする。これは、大・中項目に関連して出題されるものとする。また、出題範囲は記載された事項に限定されず、標準的な学生用参考書に記載されている程度の内容を含む。

2. 専門領域等により同一事象に対し異なる表現がある場合には、カッコ書き等によりどちらも使用可能とした。

また、カッコは以下のルールにより使用した。試験委員会の判断により、カッコ内、外の語を適宜使用できる。

() : 省略しても意味または分類の変わらない語

例；蛋白(質)

< > : 直前の語の言い換えまたは説明、例示

例；世界保健機関<WHO>、外耳<耳介、外耳道、鼓膜>

[] : < >の中に< >がある場合の大きい括り

{ } : 「主要な検査項目の表記」における、表記の例示

視能訓練士国家試験出題基準と試験科目との対応表

出題基準(章)	試験科目
○人体の構造と機能及び心身の発達 ○疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進 ○視覚機能の基礎と検査機器 ○保健医療福祉と視能障害のリハビリテーションの理念	基礎医学大要
○基礎視能矯正学	基礎視能矯正学
○視能検査学	視能検査学
○視能障害学	視能障害学
○視能訓練学	視能訓練学

必修問題（仮称）

（注意事項）

必修問題（仮称）の出題基準において、「説明できる」とされているものは、筆答と同程度の具体的な理解を求める出題を行うもの、「理解している」とされているものは、解答肢の正誤を判定できる程度の理解を求める出題を行うものである。

1. 医の倫理、患者の人権

A. 医の倫理と視能矯正のあり方

a. 視能訓練士としての責務

視能訓練士法第1条、第2条を理解している。

b. 視能訓練士の倫理

世界医師会（以下、「WMA」という。）リスボン宣言を理解している。

c. 業務の管理と運営

視能訓練士の業務で実施可能な検査（視能訓練士法第2条および第17条）を説明できる。

B. 患者の権利と義務

a. 患者の権利と義務

2005年WMAリスボン宣言の原則を理解している。

b. インフォームドコンセント

WMAリスボン宣言の「3. 自己決定の権利」、「4. 意識のない患者」、「5. 法的無能力の患者」を理解している。

c. 個人情報保護、守秘義務

WMAリスボン宣言の「7. 情報に対する権利」、「8. 守秘義務に対する権利」を理解している。

C. 患者と視能訓練士の関係

a. 患者の意向の尊重〈患者参加型医療〉

WMAリスボン宣言の「3. 自己決定の権利」、「4. 意識のない患者」、「5. 法的無能力の患者」を理解している。

2. 社会と医療、心理面の配慮

A. 医療制度

a. 視能訓練士法

第1条、第2条、第3条、第4条、第14条、第17条、第18条、第19条を理解している。

b. 医療保険制度

国民皆保険制度、後期高齢者医療制度、高額療養費制度を理解している。

B. 心理、社会的問題

a. QOL 〈quality of life〉

QOL 〈quality of life〉について理解している。

b. QOV 〈quality of vision〉

QOV 〈quality of vision〉について説明できる。

c. ノーマライゼーション

ノーマライゼーションを理解している。

d. バリアフリー、ユニバーサルデザイン

バリアフリー、ユニバーサルデザインを理解している。

C. 医療面接の方法

a. 医療面接の進め方

医療面接における、患者を理解するための情報収集、患者とのラポールの構築、患者教育と治療への動機づけのための説明の主要3項目を理解している。

b. 面接者の態度、接遇とマナー

好ましい服装、身だしなみ、座る位置と距離、目線、アイコンタクト、顔の表情、態度、身振り、手振り、スキンシップ、声の調子などを説明できる。

c. 病歴のとり方

主訴、現病歴、経過と症状、増悪要因、寛解要因、随伴症状、既往歴、家族歴、患者背景などの聴取すべき項目を説明できる。

D. 診療録、医療記録

a. 診療録の記録と報告

問題指向型システムでは意義、目的、記載方法を説明でき、問題指向型診療記録では意味、書き方、プロブレムを理解している。

E. 安全の確保と危機管理

a. インシデント、アクシデントとレポート

インシデント、アクシデントとレポートについて説明できる。

b. 院内感染対策

院内感染対策の基本を理解し、眼科領域のウイルス感染症の院内感染対策を説明できる。

3. 人体の構造と機能

A. 成長と発達

a. 発生

ヒトの初期発生を理解している。

b. 成長

子どもの発達段階ごとの特徴と重視すべき課題を理解している。

c. 加齢

加齢と老化の違いを理解している。

4. 視覚器の構造

A. 視覚器の解剖

a. 眼球

眼球の外膜、中膜、内膜と網膜、角膜の層構造を説明できる。

b. 眼付属器

眼窩構成骨、眼窩の頭蓋開口部、外眼筋とその神経支配を説明できる。

5. 光学と視機能

A. 光学

a. 光の性質、幾何光学

可視光、赤外線、紫外線の波長とその特性を説明できる。

b. レンズ、プリズム

凸レンズ、凹レンズ、球面レンズ、円柱レンズ、プリズムのそれぞれの特徴を説明できる。

c. フィルタ

ND (neutral density) フィルタを理解している。

B. 眼球光学

a. 眼球光学系の特徴

全屈折力、角膜屈折力、水晶体屈折力、眼軸長それぞれの正常値を説明できる。

6. 視機能

A. 形態覚

a. 視力

小数視力、LogMAR 値を説明できる。

B. 屈折、調節、AC/A 比

a. 屈折

b. 調節

呈示されたデータから調節力を算出できる。

c. AC/A 比

gradient 法、大型弱視鏡使用法など AC/A 比の各算出法を理解している。

C. 両眼視、複視

a. 両眼視

両眼視の 3 要素と両眼視機能測定法を具体的に説明できる。

b. 複視

単眼複視の原因と両眼複視との違いを説明できる。

D. 視野

a. 視野

静的視野と動的視野の定義を説明できる。

E. 光覚、色覚

a. 光覚、色覚

色の 3 要素（色相、明度、彩度）と Purkinje 現象を説明できる。

F. 眼球運動

a. 外眼筋の作用

各外眼筋の正面視からの作用方向と回旋方向を説明できる。

b. 眼球運動

各外眼筋のともむき筋、はりあい筋、ともひき筋を説明できる。

7. 主要眼疾患、症候群

A. 眼瞼

a. 眼瞼下垂

眼瞼下垂の原因別分類と挙筋機能の判定法を説明できる。

B. 涙器

a. 涙液分泌減少症、眼乾燥症〈ドライアイ〉

Schirmer 試験の方法と正常値を説明でき、生体染色検査（ローズベンガル試験、フルオレセイン試験）を理解している。

C. 結膜

a. 結膜炎

主要な結膜炎（アレルギー性、細菌性、ウイルス性）の症状の特徴を説明できる。

D. 角膜

a. 角膜潰瘍

角膜潰瘍の原因を説明することができ、それぞれの違いを理解している。

E. 水晶体

a. 白内障

白内障の症状と原因を説明することができ、治療法を理解している。

F. 緑内障

a. 原発開放隅角緑内障

原発開放隅角緑内障の自覚症状と検査所見を説明できる。

b. 正常眼圧緑内障

正常眼圧緑内障の特徴と日本人での頻度を理解している。

c. 原発閉塞隅角緑内障

原発閉塞隅角緑内障の自覚症状と検査所見を説明できる。

d. 発達緑内障

発達緑内障の特徴を理解している。

G. ぶどう膜

a. ぶどう膜炎

ぶどう膜炎の原因と症状を理解している。

H. 網膜

a. 網膜静脈閉塞症

網膜静脈閉塞症の症状と検査所見を説明できる。

b. 網膜動脈閉塞症

網膜動脈閉塞症の症状と検査所見を説明できる。

c. 糖尿病網膜症

糖尿病網膜症の症状と検査所見を説明できる。

d. 網膜色素変性

網膜色素変性の症状と検査所見を説明できる。

e. 未熟（児）網膜症

未熟（児）網膜症の検査所見を理解している。

f. 加齢黄斑変性

加齢黄斑変性の症状と検査所見を説明でき、治療法を理解している。

g. 網膜剥離

網膜剥離の症状と検査所見を説明でき、治療法を理解している。

h. 網膜芽細胞腫

網膜芽細胞腫の検査所見を説明できる。

I. 眼窩

a. 眼球突出

眼球突出の原因と計測法を説明できる。

J. 視神経、視路

a. 視神経炎

視神経炎の症状と検査所見を説明できる。

b. 視神経症

視神経症の原因を理解している。

c. うっ血乳頭

うっ血乳頭の原因を理解している。

d. 視神経交叉部腫瘍

視神経交叉部腫瘍の症状を説明できる。

e. 視放線、後頭葉の疾患

視放線、後頭葉の疾患の症状を説明できる。

K. 瞳孔

a. 瞳孔不同

瞳孔径変化の原因（加齢、屈折度等）と瞳孔不同の原因を理解している。

b. 対光反射異常

相対的瞳孔求心路障害[relative afferent pupillary defect < RAPD >]と対光反射・近見反応乖離を説明できる。

L. 眼球運動

a. 眼運動神経麻痺

眼運動神経麻痺の症状を説明できる。

b. 重症筋無力症

重症筋無力症の眼症状の発生機序を理解している。

c. 眼窩壁骨折

眼窩壁骨折の眼症状の発生機序を理解している。

M. 斜視

a. 内斜視

内斜視の分類及び各検査所見と治療法を説明できる。

b. 外斜視

外斜視の分類及び各検査所見と治療法を説明できる。

c. 上下斜視

上下斜視の原因と治療法を説明できる。

d. 回旋斜視

回旋斜視の原因と治療法を説明できる。

e. A-V 型斜視

A-V 型斜視の特徴を説明できる。

f. 交代性上斜位

交代性上斜位の特徴を説明できる。

g. 微小斜視

微小斜視の特徴と検査法を説明できる。

h. 麻痺性斜視

麻痺性斜視の原因と特徴を説明できる。

i. 斜視特殊型

斜視特殊型の分類と特徴を説明できる。

N. 弱視

a. 斜視弱視

斜視弱視の特徴を説明できる。

b. 微小斜視弱視

微小斜視弱視の特徴を説明できる。

c. 不同視弱視

不同視弱視の特徴と治療法を説明できる。

d. 屈折異常弱視

屈折異常弱視の特徴と治療法を説明できる。

e. 形態覚遮断弱視

形態覚遮断弱視の特徴と治療法を説明できる。

O. 身体表現性障害(解離性障害)

a. 身体表現性障害(解離性障害)

眼科での身体表現性障害(解離性障害)の特徴を説明できる。

P. 全身疾患と関連する眼疾患、症状

a. アトピー性皮膚炎

アトピー性皮膚炎に合併しやすい眼疾患を説明できる。

b. 高血圧症、動脈硬化症

高血圧性眼底変化と動脈硬化性眼底変化を説明できる。

c. 脳出血、脳梗塞、脳腫瘍

脳圧亢進の眼症状（うっ血乳頭、外転神経麻痺、視神経萎縮）を説明できる。

d. 甲状腺機能亢進症

甲状腺眼症の眼症状の特徴を理解している。

e. 糖尿病

糖尿病の眼症状（網膜症、白内障、血管新生緑内障、眼筋麻痺）の特徴を説明できる。

8. 視能検査

A. 視力検査

a. 遠見、近見視力検査

遠見、近見視力検査の方法を説明できる。

b. 単一、並列視力検査

単一、並列視力検査の方法を説明できる。

c. 乳幼児視力検査（PL 法を含む）

乳幼児視力検査（PL 法を含む）の方法を説明できる。

d. 両眼開放視力検査

両眼開放視力検査の方法を説明できる。

B. 屈折検査

a. 他覚的屈折検査（波面収差解析を含む）

他覚的屈折検査（波面収差解析を含む）の方法を説明できる。

b. 自覚的屈折検査

自覚的屈折検査の方法を説明できる。

C. 眼鏡、コンタクトレンズ検査

眼鏡、コンタクトレンズ検査を理解している。

D. 固視検査

固視検査の方法を理解している。

E. 調節検査（AC/A 比含む）

調節検査（AC/A 比含む）の方法を説明できる。

F. 視野検査

a. 動的、静的視野測定法（自動視野計を含む）

動的視野と静的視野の具体的検査法と特徴を説明できる。

G. 両眼視機能検査（網膜対応検査を含む）

両眼視機能検査（網膜対応検査を含む）の種類と方法を説明できる。

H. 眼位検査

a. 遮閉試験

遮閉試験の具体的検査法を説明できる。

b. プリズム

プリズムを用いた眼位検査を具体的に説明できる。

c. 大型弱視鏡検査

大型弱視鏡を用いた眼位検査を説明できる。

I. 眼球運動検査

a. 赤フィルタ法

赤フィルタでの検査法と検査結果を説明できる。

b. Hess 赤緑試験

Hess 赤緑試験での検査法と検査結果を説明できる。

J. 輻湊検査

輻湊検査の具体的検査法を説明できる。

K. 角膜検査

a. 角膜形状解析

角膜形状解析検査法と検査結果を説明できる。

b. 角膜内皮細胞検査

角膜内皮細胞検査法と正常値を説明できる。

L. 瞳孔検査

a. 対光反射

視神経疾患での対光反射の異常を理解している。

b. 近見反応

近見反応異常の原因を理解している。

M. 眼底検査

a. 倒像、直像鏡検査

倒像、直像鏡検査についてそれぞれの特徴を説明できる。

N. 眼圧検査

眼圧検査（圧平、非接触型など）についてそれぞれの特徴を説明できる。

O. 画像検査

a. 眼底画像検査

光干渉断層計〈OCT〉での正常像を説明できる。

b. 超音波検査

A モード、B モード超音波検査の方法と正常像を説明できる。

P. 電気生理検査

a. 網膜電図〈ERG〉

網膜電図〈ERG〉検査の方法と正常像を説明できる。

b. 眼球電図〈EOG〉

眼球電図〈EOG〉検査の方法と原理を理解している。

c. 電気眼振図〈ENG〉

電気眼振図〈ENG〉検査の方法と原理を理解している。

d. 視覚誘発電位〈VEP〉

視覚誘発電位〈VEP〉検査の方法と原理を理解している。

9. 視能訓練

A. 基本的視能訓練

a. 屈折矯正

調節麻痺薬の種類とその使用法を説明できる。

b. 弱視訓練

弱視訓練の種類と内容を説明できる。

c. 両眼視訓練

両眼視訓練の種類と内容を説明できる。

d. プリズム療法

プリズム療法を説明できる。

10. 眼薬理学

A. 視能検査および視能矯正に用いる薬物の基本的知識

a. 交感神経薬

作動薬としてのアドレナリン、フェニレフリン塩酸塩の作用、副作用を理解している。

b. 副交感神経薬

作動薬としてのアセチルコリン、抗コリンエステラーゼ薬の作用、副作用を理解している。

遮断薬のアトロピン硫酸塩、シクロペントラート塩酸塩の作用、副作用を説明できる。

B. 薬物の投与方法

a. 局所投与

点眼薬の吸収経路、排出経路、点眼法、副作用を理解している。

C. 薬物の副作用

a. 中毒、ショック

アトロピン硫酸塩、メタノールの中毒症状を理解している。

b. 副腎皮質ステロイド

糖尿病、緑内障、白内障、易感染性、肥満などを説明できる。

c. 抗菌薬耐性と院内感染

抗菌薬耐性と菌交代現象、院内感染の原因について理解している。

專 門 基 礎 分 野

専門基礎分野

I. 人体の構造と機能及び心身の発達

大 項 目	中 項 目	小 項 目
1. 生殖、発生の概要	A. 受精から個体発生	a. 眼の発生
		b. 発生に関するその他の重要な事項
2. 個体の構造	A. 細胞の構造と機能	a. 核、ミトコンドリア
	B. 組織の構造と機能	a. 上皮組織、支持組織、筋組織、神経組織
3. 遺伝	A. 遺伝子	a. 基本構造と機能
		b. 染色体
		c. 核遺伝子
		d. ミトコンドリア遺伝子
4. 血液、造血器	A. 血液、造血器の構造と機能	
5. 免疫機構	A. 免疫系の構成・機能	
6. 運動器	A. 骨、関節の構造と機能	
	B. 筋の構造と機能	a. 骨格筋、平滑筋
7. 呼吸器	A. 気道の構造と機能	
	B. 肺の構造と機能	
8. 心臓、血管	A. 心臓、血管の構造と機能	
9. 消化器	A. 口腔、咽頭の構造と機能	
	B. 消化管の構造と機能	
	C. 肝、胆道、膵の構造と機能	
10. 内分泌	A. 内分泌器官の構造と機能	a. 視床下部、下垂体、甲状腺、副腎皮質、 膵島、松果体
		b. ホルモンの種類と作用機序
11. 腎、泌尿器、生殖器	A. 腎、尿路の構造と機能	
	B. 生殖器の構造と機能	
12. 脳・神経	A. 神経の構造と機能	a. 神経生理学
		b. 神経細胞、神経線維、軸索、髄鞘、神経 膠細胞
		c. シナプス、神経伝達物質
	B. 中枢神経の構造と機能	a. 脳(大脳、間脳、中脳、橋、延髄、小脳)
		b. 脊髄
	C. 末梢神経の構造と機能	a. 脳神経(第Ⅰ～Ⅻ脳神経)
		b. 脊髄神経
	D. 自律神経	a. 交感神経
		b. 副交感神経
13. 感覚器	A. 視覚系の構造と機能	a. 眼球と眼付属器
		b. 視神経、視交叉、視索、外側膝状体
		c. 視放線、後頭葉<視覚中枢>
		d. 視覚系の機能
	B. 聴覚系の構造と機能	

大 項 目	中 項 目	小 項 目
	C. 前庭平衡系の構造と機能	
	D. 嗅覚、味覚系の構造と機能	
	E. 体性感覚系の構造と機能	
14. 心身の成長・発達、加齢	A. 胎児期	a. 胎児の発育
	B. 新生児期、乳児期	a. 新生児、乳児の生理
	C. 幼児期、学童期	a. 幼児期、学童期の成長と発達
	D. 思春期、青年期	a. 身体の成長と発達
		b. 精神発達
	E. 加齢、老化	a. 加齢による細胞と組織の変化
		b. 加齢による臓器と機能の変化

専門基礎分野

Ⅱ．疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進

大 項 目	中 項 目	小 項 目
1. 健康、疾病、障害の概念	A. 健康、疾病、障害の基本的知識	a. 定義
		b. 健康管理と増進
		c. 健康科学と栄養
		d. 国際疾病分類
		e. 社会環境の変化
2. 病態の基礎	A. 疾病の原因	a. 病因論
		b. 退行性病変
	B. 病因と疾病の種類	b. 進行性病変
		c. 代謝異常
		d. 循環障害
		e. 免疫異常
		f. 炎症、感染
		g. 腫瘍
		h. 外傷
		i. 先天異常
		j. 染色体、遺伝子異常
		k. 心身症、精神疾患
	C. 疾病の回復メカニズム	a. 細胞の再生
		b. 創傷の治癒
		c. 脳の可塑性
		d. 機能回復
	D. 病期	a. 急性期
		b. 回復期
		c. 増悪期
		d. 維持期
		e. 終末期
3. 疾患の診断と治療	A. 感覚器系疾患	a. 視能障害をきたす疾患
		b. 聴覚障害をきたす疾患
	B. 脳、神経系疾患	a. 脳血管障害
		b. 脳腫瘍
		c. 脳外傷
		d. 脊髄、脊椎疾患
		e. 末梢神経疾患
		f. 神経変性疾患、脱髄疾患
		g. 高次脳機能障害
	C. 内科系疾患	a. 循環器疾患
		b. 呼吸器疾患
		c. 代謝、内分泌疾患
		d. 腎、泌尿器、生殖器疾患
		e. アレルギー疾患、膠原病、自己免疫疾患
		f. 感染症

大 項 目	中 項 目	小 項 目
	D. 精神神経系疾患	a. 機能的<内因性>精神疾患
		b. 器質性精神疾患
		c. 神経症性障害、ストレス関連障害および身体表現性障害(解離性障害)
		d. 人格障害
		e. 小児、青年、老年期の精神障害
		f. 発達障害
		g. 心身医学的疾患
	E. 運動器系疾患	a. 骨、関節疾患
		b. 筋原性疾患
	F. 外科系疾患	a. 外傷
	G. 小児科系疾患	a. 脳神経系疾患
		b. 代謝疾患
		c. 呼吸器、循環器疾患
		d. 運動器疾患
		e. アレルギー疾患
	H. 老年期疾患	a. 加齢と老化
		b. 老年期の身体および精神疾患の特徴と対策
4. 眼病理	A. 視器の病理	a. 眼球、眼付属器の病理
		b. 外眼筋
		c. 視神経
5. 免疫	A. 免疫と眼	a. 眼の免疫機構
		b. 眼疾患と免疫
		c. アレルギー反応
6. 遺伝	A. 遺伝子異常と眼	a. 遺伝子異常と主な眼疾患

大 項 目	中 項 目	小 項 目
1. 視覚情報処理過程の概要	A. 眼球の解剖学的、幾何学的計測値	a. 解剖学的計測値
		b. 光学的計測値
	B. 眼球	a. 角膜
		b. 強膜
		c. ぶどう膜<虹彩、毛様体、脈絡膜>
		d. 網膜
		e. 水晶体
		f. 硝子体
		g. 毛様体小帯<Zinn小帯>
		h. 隅角
	C. 眼付属器	a. 眼瞼
		b. 結膜
		c. 涙器(涙腺、導涙系)
	D. 視神経	
	E. 外眼筋	a. 内直筋
		b. 外直筋
		c. 上直筋
		d. 下直筋
		e. 上斜筋
		f. 下斜筋
	F. 眼球の血管系	a. 眼動脈
		b. 眼静脈
		c. 網膜中心動脈
		d. 網膜中心静脈
		e. 毛様体動脈
		f. 大虹彩動脈輪
		g. 渦静脈
		h. 上眼静脈、下眼静脈
		i. 海綿静脈洞
	G. 眼窩	a. 眼窩構成骨
		b. 視神経管
		c. 上眼窩裂
		d. 下眼窩裂
	H. 大脳皮質と機能局在	a. 中枢処理機構
		b. 第一次感覚野
		c. 第一次運動野
		d. 高次感覚野
		e. 高次運動野
		f. 連合野

大 項 目	中 項 目	小 項 目
	I. 視覚伝導路	a. 網膜
		b. 視神経
		c. 視交叉
		d. 視索
		e. 外側膝状体
		f. 視放線
		g. 第一次視覚中枢
		h. 高次視覚中枢
	J. 眼運動系	a. 核上性中枢
		b. 眼球運動神経核
		c. 動眼神経、滑車神経、外転神経
		d. 輻湊、開散
		e. 開瞼、閉瞼運動
	K. 眼の知覚系	a. 三叉神経
	L. 眼の自律神経系	a. 交感神経
		b. 副交感神経
		c. 調節
	M. 瞳孔反応	a. 対光反射
		b. 近見反応
	N. 眼圧、房水	a. 眼圧
		b. 房水
	O. 涙液	a. 涙液層
2. 生体と検査機器	A. 視能検査機器の基本的知識	a. 視覚情報の基本
		b. 検査機器の規格と構成
		c. 検査目的に応じた検査機器の選択
		d. 機器の安全管理
3. 視能検査法と検査機器の基礎	A. 視力検査	
	B. 屈折検査	
	C. 眼鏡、コンタクトレンズ検査	
	D. 固視検査	
	E. 調節検査(AC/A比含む)	
	F. 視野検査	
	G. 色覚検査	
	H. 中心フリッカ検査	
	I. 両眼視機能検査(網膜対応検査を含む)	
	J. 眼位検査	
	K. 眼球運動検査	
	L. 輻湊検査	
	M. 外眼部検査	

大 項 目	中 項 目	小 項 目
	N. 前眼部、透光体検査	
	O. 角膜検査	
	P. 瞳孔検査	
	Q. 眼底検査	
	R. 眼圧検査	
	S. 隅角検査	
	T. 涙液検査	
	U. 画像検査	
	V. 電気生理検査	
4. 眼薬理学	A. 視能検査および視能矯正に用いる薬物の基本的知識	a. 交感神経薬
		b. 副交感神経薬
		c. 点眼薬
		d. 催眠薬
		e. 局所麻酔薬
	B. 薬物の投与方法	a. 局所投与
		b. 全身投与
		c. 薬物の眼内移行
	C. 薬物の副作用	a. 中毒、ショック
		b. 副腎皮質ステロイド
		c. 点眼薬
	D. 医薬品等による健康被害、院内感染	

大 項 目	中 項 目	小 項 目
1. 保健、医療、福祉、介護の推進	A. 保健、医療、福祉、介護制度の特徴	a. 行政と制度
	B. 社会医療制度と医療経済	a. 視能訓練士と医療経済
		b. 医療保険制度
	C. 視能訓練士法と関係法規	a. 視能訓練士法
		b. 医療法
		c. 障害者の日常生活及び社会生活を総合的に支援するための法律<障害者総合支援法>
		d. 介護保険法
		e. その他の関係法規
	D. 組織と連携	a. 国と公共団体
		b. 保健所、市町村保健センター
2. 公衆衛生学	A. 公衆衛生総論	
	B. 疫学概論と疫学指標	a. 環境問題
		b. 人口統計
		c. 生命表<平均余命と平均寿命>
		d. 疫学的方法
		e. 健康診査
	C. 健康の指標	a. 人口問題
		b. 生命表<死因分類>
3. 視能障害のリハビリテーション	A. リハビリテーションの考え方	a. QOL<quality of life>
		b. ノーマライゼーション
		c. 国際生活機能分類<ICF>
		d. 適応
		e. リハビリテーションの進め方
		f. 関連職種との連携
	B. 視能障害のリハビリテーション	a. QOL<quality of life>とQOV<quality of vision>
		b. 視能訓練士の役割
		c. 対象疾患
		d. 障害論、障害受容
		e. 患者と家族の心理
		f. 日常生活の不自由度
		g. 日常生活動作の援助指導
		h. バリアフリー、ユニバーサルデザイン
	C. ロービジョン	a. 定義
		b. 評価

大 項 目	中 項 目	小 項 目
4. 視能訓練士の役割と義務	A. 視能訓練士の倫理	a. リスボン宣言
		b. 視能訓練士法と業務
		c. 職務倫理、基本的心構え
		d. インフォームドコンセント
		e. 接遇、マナー
		f. 対象者の人権と個人情報保護
		g. 患者、小児、高齢者、障害者の心理特性とケア
		h. 検査における責任
		i. 検査データの管理
		j. 記録と報告
		k. 守秘義務
	B. 医療の質と安全の確保	a. 患者の安全管理
		b. 医療システム管理
		c. インシデント、アクシデントとレポート
		d. 院内感染対策
		e. 救急対応と処置
	C. チーム医療	a. 医療スタッフの連携
		b. 医療でのチームワーク、家族との連携
		c. 連絡体制管理
	D. 患者と視能訓練士の関係	a. 患者の意向の尊重〈患者参加型医療〉
	E. 視能訓練士の教育	

專 門 分 野



專
門
分
野

専門分野

I. 基礎視能矯正学

大 項 目	中 項 目	小 項 目
1. 視能矯正の枠組み	A. 視能矯正の理念	a. 理念と目的
		b. 視能障害の捉え方
		c. 保健医療福祉と視能矯正
	B. 視能矯正の歴史	
	C. 視能矯正の展開	a. 視能訓練士の業務
		b. 業務の管理と運営
		c. 科学的研究の意義と方法
		d. 根拠<エビデンス>に基づいた医療<EBM>としての視能矯正
2. 両眼視機能と眼球運動	A. 外眼筋の作用と眼球運動	a. 外眼筋の単独作用
		b. 単眼運動とその法則
		c. 両眼共同運動、両眼離反運動
		d. 共同筋と拮抗筋
		e. 外眼筋の神経支配
	B. 輻湊、開散と屈折、調節、AC/A比	a. 定義
		b. 発達
		c. 神経支配と中枢
		d. 種類
		e. 測定法
	C. 両眼視	a. 定義と正常、異常
		b. 発達
		c. 成立の生理学的機序
		d. 網膜対応、両眼視野
		e. ホロプタとVieth-Müllerの円
		f. Panumの融像感覚圏
		g. 両眼視の成立条件
		h. 融像
		i. 静的立体視と動的立体視
		j. 視野闘争と抑制
		k. 固視ずれ
		l. 不同視と不等像視
		m. 複視
		n. 動体覚
	D. 眼位	a. 定義
		b. 眼位の成り立ち
		c. 眼位の異常
		d. 屈折異常と眼位の関係
	E. 眼球運動	a. 固視微動
		b. 共同運動
		c. 非共同運動
		d. 位置覚と自己受容器
		e. 筋の興奮収縮連関
		f. 神経、筋の静止電位と活動電位

大項目	中項目	小項目
3. 視能矯正と視覚生理学の基礎	A. 基本的知識	a. 生理光学
		b. 視覚生理学
		c. 視覚心理学
		d. 視覚の成り立ち
	B. 光覚	a. 網膜の光化学
		b. 明順応
		c. 暗順応
		d. 分光視感効率<比視感度>
	C. 色覚	a. 色の性質
		b. 色覚異常の種類と検査、遺伝
	D. 形態覚	a. 視力の概念
		b. 視力の分類
		c. 視力に影響する因子
		d. 網膜部位と視力
		e. コントラスト感度
	E. 視野	a. 視野の概念
		b. 動的測定と静的測定
		c. 視野に影響する因子
		d. 視野異常
4. 視能矯正と生理光学の基礎	A. 基本的知識	a. 光の性質、幾何光学
		b. レンズ
		c. プリズム
		d. フィルタ
		e. ミラー
		f. 結像と収差
		g. 波動光学
	B. 眼球光学	a. 眼球光学系の特徴
		b. 模型眼とその名称
		c. 屈折、調節の光学
	C. 屈折、調節の異常	a. 近視
		b. 遠視
		c. 乱視
		d. 老視
	D. 屈折、調節の矯正	a. 眼鏡レンズ
		b. コンタクトレンズ
		c. 眼内レンズ
		d. 手術
		e. 薬物

大 項 目	中 項 目	小 項 目
1. 視能検査学概要	A. 基本的知識	a. 検査に対する知識
		b. 検査法とそのプランニング
	B. 医療面接の方法	a. 医療面接の進め方
		b. 面接者の態度、接遇とマナー
		c. 病歴のとり方
	C. 診療録、医療記録	a. 診療録の記録と報告
		b. 検査データの管理
	D. 患者、障害者への検査	a. 心理的評価
		b. 小児、高齢者、障害者への対応
		c. 検査時の注意
2. 視能検査の心理的、社会的側面についての配慮	A. 視能訓練士の心理的、社会的側面	a. 検査への姿勢、意識
		b. 検査における責任
		c. 視能訓練士の自己マネジメント
	B. 患者、障害者の心理的、社会的側面	a. 患者、障害者の心理
		b. 病気、障害に対する意識と心理
3. 視能検査	A. 視力検査	a. 遠見、近見視力検査
		b. 単一、並列視力検査
		c. 乳幼児視力検査<PL法を含む>
		d. 両眼開放視力検査
		e. コントラスト感度、干渉縞視力
		f. LogMAR値
		g. ETDRSチャート
		h. グレア検査
	B. 屈折検査	a. 他覚的屈折検査(波面収差解析を含む)
		b. 自覚的屈折検査
	C. 眼鏡、コンタクトレンズ検査	a. 眼鏡検査
		b. コンタクトレンズ検査
		c. 瞳孔間距離計測検査
		d. レンズメータ
	D. 固視検査	
	E. 調節検査(AC/A比含む)	
	F. 視野検査	a. 動的、静的視野測定法(自動視野計を含む)
		b. 中心暗点検査
		c. 対座法
	G. 色覚検査	a. 色覚検査表<仮性同色表>
		b. アノマロスコープ
		c. 色相配列検査
	H. 中心フリッカ検査	a. 限界フリッカ値<CFF>

大項目	中項目	小項目
	I. 両眼視機能検査(網膜対応検査を含む)	a. Bagolini線条検査
		b. 融像検査
		c. 大型弱視鏡検査
		d. 残像検査
		e. 赤フィルタ法
		f. 立体視検査(深径覚の検査を含む)
		g. 不等像視検査
		h. プリズム
		i. Worth4灯試験
		j. 偏光フィルタ
	J. 眼位検査	a. 角膜反射検査
		b. 遮閉試験
		c. Maddox杆
		d. プリズム
		e. 大型弱視鏡検査
	K. 眼球運動検査	a. 赤フィルタ法
		b. Hess赤緑試験
		c. 注視野
		d. 9方向眼位検査
		e. 牽引試験
	L. 輻湊検査	
	M. 外眼部検査	a. 眼球突出計
	N. 前眼部、透光体検査	a. 細隙灯顕微鏡検査
		b. フレア検査
	O. 角膜検査	a. 角膜形状解析、角膜トポグラフィ
		b. 角膜内皮細胞検査
		c. 角膜知覚検査
		d. 角膜厚計測
	P. 瞳孔検査	a. 対光反射
		b. 近見反応
		c. 瞳孔径測定
	Q. 眼底検査	a. 倒像、直像鏡検査
		b. 前置レンズ検査
	R. 眼圧検査	
	S. 隅角検査	
	T. 涙液検査	a. Schirmer試験
		b. 生体染色検査
		c. 涙液層破壊時間<BUT>

大 項 目	中 項 目	小 項 目
	U. 画像検査	a. 眼底撮影
		b. 広角眼底撮影
		c. 立体眼底撮影
		d. 蛍光眼底撮影(フルオレセイン、インドシアニンググリーン)
		e. 眼底自発蛍光撮影
		f. 光干渉断層計<OCT>
		g. 超音波検査
		h. 眼軸長検査
		i. エックス線撮影、CT、MRI
	V. 電気生理検査	a. 網膜電図<ERG>
		b. 眼球電図<EOG>
		c. 電気眼振図<ENG>
		d. 視覚誘発電位<VEP>
		e. 筋電図<EMG>
		f. 視運動性眼振<OKN>

大 項 目	中 項 目	小 項 目
1. 主要眼疾患の基本的知識	A. 眼瞼	a. 眼瞼下垂
		b. 睫毛、眼瞼内反
		c. 兔眼
		d. 麦粒腫
		e. 霰粒腫
		f. 睫毛乱生
	B. 涙器	a. 鼻涙管閉塞
		b. 涙嚢炎
		c. 涙液分泌減少症、眼乾燥症<ドライアイ>
	C. 結膜	a. 結膜炎
	D. 角膜	a. 角膜炎
		b. 角膜潰瘍
		c. 角膜変性(症)、角膜ジストロフィ
		d. 円錐角膜
	E. 強膜	a. 強膜炎
	F. 水晶体	a. 白内障
		b. 水晶体偏位、脱臼
	G. 緑内障	a. 原発開放隅角緑内障
		b. 正常眼圧緑内障
		c. 原発閉塞隅角緑内障
		d. 発達緑内障
	H. ぶどう膜	a. 虹彩毛様体炎
		b. ぶどう膜炎
	I. 網膜	a. 網膜静脈閉塞症
		b. 網膜動脈閉塞症
		c. 糖尿病網膜症
		d. 網膜色素変性
		e. 中心性漿液性脈絡網膜症
		f. 未熟(児)網膜症
		g. 加齢黄斑変性
		h. 網膜剥離
		i. 網膜芽細胞腫
	J. 硝子体	a. 硝子体出血、混濁
	K. 眼窩	a. 眼球突出
		b. 眼窩腫瘍
		c. 眼窩の外傷
	L. 視神経、視路	a. 視神経炎
		b. 視神経症
		c. うっ血乳頭
		d. 視神経交叉とその近傍の疾患
		e. 外側膝状体の疾患
		f. 視放線、後頭葉の疾患

大 項 目	中 項 目	小 項 目
	M. 瞳孔	a. 瞳孔不同
		b. 瞳孔緊張症
		c. 対光反射異常
		d. 近見反応
	N. 斜視	
	O. 弱視	
	P. 眼球運動	a. 核上性眼球運動障害
		b. 核、核下性眼球運動障害<眼運動神経麻痺>
		c. 神経筋接合部障害
		d. 筋原性障害
		e. 機械的障害
		f. 眼振
		g. その他の異常眼球運動
	Q. 色覚異常	
	R. 屈折異常	
	S. 調節異常	
	T. 眼外傷	
	U. 身体表現性障害(解離性障害)	
	V. 全身疾患と眼	
2. 失明予防	A. 予防と対策	a. 失明原因疾患
		b. 視覚発達時期別の予防対策
		c. 原因別予防対策

大 項 目	中 項 目	小 項 目
1. 斜視の基本的知識	A. 定義	
	B. 病因論	
	C. 分類	a. 内斜視
		b. 外斜視
		c. 上下斜視
		d. 回旋斜視
		e. A-V型斜視
		f. 交代性上斜位
		g. 微小斜視
		h. 麻痺性斜視
		i. 斜視特殊型
2. 弱視の基本的知識	A. 定義	
	B. 病因論	
	C. 小児視能特性	
	D. 分類	a. 斜視弱視
		b. 微小斜視弱視
		c. 不同視弱視
		d. 屈折異常弱視
		e. 形態覚遮断弱視
3. ロービジョン	A. ロービジョンケア	a. 視覚補助具の選定と指導
4. 視能訓練の臨床心理概要	A. 小児心理の特性	a. 小児期
		b. 思春期、青年期
	B. 病院における小児の心理	a. 不安の心理
		b. 恐怖の心理
	C. 患者と家族の心理	a. 障害の受容に至る過程
		b. 視能障害児(者)の心理
		c. 高齢者の心理
		d. 家族の心理
	D. 視能訓練と小児の心理	a. 訓練に入る前の心理とケア
		b. 視能訓練と小児の心理
5. 視能訓練の基本的知識と技術の概要	A. 基本的知識と技術の概要	a. 目的
		b. 原理と原則
		c. インフォームドコンセント
		d. 種類
		e. 目標と計画
		f. 適応と予後
		g. 方法の選択
		h. 効果の判定
		i. 記録と報告
		j. 指導と管理
		k. 注意点と禁忌
		l. 基本用語

大 項 目	中 項 目	小 項 目
	B. 屈折矯正	
	C. 弱視訓練	
	D. 両眼視訓練	
	E. 眼球運動訓練	
6. 視能矯正の知識と技術	A. 視血的視能矯正	a. 適応と方法
		b. 量定と手術筋の選択
		c. 合併症
	B. 光学的視能矯正	a. 適応と方法
		b. 眼鏡とコンタクトレンズ
		c. プリズム、フィルタ
	C. 薬理学的視能矯正	a. 適応と方法
		b. 副作用、合併症
	D. 視能訓練	
7. 視能矯正と視能訓練	A. 機能的視能障害	
	B. 器質的視能障害	
	C. 機械的視能障害	
	D. 身体表現性障害(解離性障害)	
	E. 眼振	
	F. 斜視	
	G. 斜位	

索引

索引

9

9方向眼位検査…………… 25

A

AC/A比…………… 4, 22

A-V型斜視…………… 7, 29

B

Bagolini線条検査…………… 25

BUT…………… 25

C

CFF…………… 24

CT…………… 26

E

EMG…………… 26

ENG…………… 9, 26

EOG…………… 9, 26

ERG…………… 9, 26

ETDRSチャート…………… 24

G

gradient法…………… 4

H

Hess赤緑試験…………… 9, 25

I

ICF…………… 19

L

LogMAR値…………… 4, 24

M

Maddox杆…………… 25

MRI…………… 26

N

ND(neutral density)フィルタ 4

O

OCT…………… 9, 26

OKN…………… 26

P

Panumの融像感覚圏…………… 22

Purkinje現象…………… 4

Q

QOL<quality of life>… 2, 19

QOV<quality of vision> 2, 19

R

relative afferent pupillary
defect<RAPD>…………… 6

S

Schirmer試験…………… 5, 25

V

VEP…………… 9, 26

Vieth-Müllerの円…………… 22

W

Worth4灯試験…………… 25

Z

Zinn小帯…………… 16

あ

赤フィルタ法…………… 9, 25

アクシデント…………… 3, 20

アセチルコリン…………… 10

アトピー性皮膚炎…………… 7

アドレナリン…………… 10

アトロピン硫酸塩…………… 10

アノマロスコープ…………… 24

アレルギー疾患…………… 14, 15

アレルギー反応…………… 15

暗順応…………… 23

安全の確保…………… 3, 20

い

易感染性…………… 10
維持期…………… 14
位置覚…………… 22
遺伝子…………… 12
遺伝子異常…………… 14, 15
医の倫理…………… 2
医薬品等による健康被害…………… 18
医療記録…………… 3, 24
医療経済…………… 19
医療システム管理…………… 20
医療スタッフの連携…………… 20
医療制度…………… 2
医療でのチームワーク…………… 20
医療の質…………… 20
医療法…………… 19
医療保険制度…………… 2, 19
医療面接…………… 3, 24
色の3要素（色相、明度、彩度）…………… 4
色の性質…………… 23
インシデント…………… 3, 20
咽頭の構造と機能…………… 12
院内感染…………… 10, 18
院内感染対策…………… 3, 20
インフォームドコンセント…………… 2, 20, 29

う

うっ血乳頭…………… 6, 7, 27
運動器疾患…………… 15

え

疫学概論…………… 19
疫学指標…………… 19
疫学的方法…………… 19
エックス線撮影…………… 26
遠見視力検査…………… 8, 24
遠視…………… 23
炎症…………… 14
延髄…………… 12

円錐角膜…………… 27
円柱レンズ…………… 4

お

凹レンズ…………… 4
大型弱視鏡…………… 8
大型弱視鏡検査…………… 8, 25
大型弱視鏡使用法…………… 4

か

外眼筋…………… 3, 4, 15, 16, 22
外眼部検査…………… 17, 25
開瞼運動…………… 17
介護保険法…………… 19
開散…………… 17, 22
外斜視…………… 7, 29
外傷…………… 14, 15
回旋斜視…………… 7, 29
外側膝状体…………… 12, 17, 27
外直筋…………… 16
外転神経…………… 17
外転神経麻痺…………… 7
回復期…………… 14
外膜…………… 3
解剖学的計測値…………… 16
海綿静脈洞…………… 16
科学的研究の意義と方法…………… 22
下眼窩裂…………… 16
下眼静脈…………… 16
核…………… 12, 28
核遺伝子…………… 12
核上性眼球運動障害…………… 28
核上性中枢…………… 17
学童期…………… 13
角膜…………… 3, 5, 16, 27
角膜厚計測…………… 25
角膜炎…………… 27
角膜潰瘍…………… 5, 27
角膜屈折力…………… 4
角膜形状解析…………… 9, 25
角膜形状解析検査法…………… 9
角膜検査…………… 9, 18, 25
角膜ジストロフィ…………… 27

角膜知覚検査…………… 25
角膜トポグラフィ…………… 25
角膜内皮細胞検査…………… 9, 25
角膜内皮細胞検査法…………… 9
角膜反射検査…………… 25
角膜変性(症)…………… 27
可視光…………… 4
下斜筋…………… 16
下垂体…………… 12
渦静脈…………… 16
画像検査…………… 9, 18, 26
家族との連携…………… 20
下直筋…………… 16
滑車神経…………… 17
活動電位…………… 22
合併症…………… 30
加齢…………… 3, 6, 13, 15
加齢黄斑変性…………… 6, 27
眼圧…………… 17
眼圧検査…………… 9, 18, 25
眼位…………… 22
眼位検査…………… 8, 17, 25
眼運動系…………… 17
眼運動神経麻痺…………… 6
眼窩…………… 3, 6, 16, 27
眼外傷…………… 28
感覚器系疾患…………… 14
眼窩構成骨…………… 3, 16
眼窩腫瘍…………… 27
眼窩壁骨折…………… 6
眼乾燥症<ドライアイ>…………… 5, 27
眼球…………… 3, 12, 15, 16
眼球運動…………… 4, 6, 22, 28
眼球運動訓練…………… 30
眼球運動検査…………… 9, 17, 25
眼球運動神経核…………… 17
眼球光学…………… 4, 23
眼球光学系の特徴…………… 4, 23
眼球電図<EOG>…………… 9, 26
眼球突出…………… 6, 27
眼球突出計…………… 25
眼鏡…………… 30
眼鏡検査…………… 8, 17, 24
環境問題…………… 19
眼鏡レンズ…………… 23
眼筋麻痺…………… 8
視血的視能矯正…………… 30

眼瞼…………… 5, 16, 27
 眼瞼下垂…………… 5, 27
 眼瞼内反…………… 27
 眼軸長…………… 4
 眼軸長検査…………… 26
 眼疾患…………… 15
 患者と家族の心理…………… 19, 29
 患者と視能訓練士の関係…………… 2, 20
 患者の安全管理…………… 20
 患者の意向の尊重〈患者参加型医療〉…………… 2, 20
 患者の権利と義務…………… 2
 患者の人権…………… 2
 患者の心理…………… 24, 29
 患者の心理的、社会的側面…………… 24
 患者の心理特性とケア…………… 20
 患者への検査…………… 24
 干渉縞視力…………… 24
 眼静脈…………… 16
 眼振…………… 28, 30
 関節疾患…………… 15
 関節の構造と機能…………… 12
 感染…………… 14
 感染症…………… 14
 眼底画像検査…………… 9
 眼底検査…………… 9, 18, 25
 眼底撮影…………… 26
 眼底自発蛍光撮影…………… 26
 眼動脈…………… 16
 眼内レンズ…………… 23
 間脳…………… 12
 肝の構造と機能…………… 12
 眼付属器…………… 3, 12, 15, 16
 眼薬理学…………… 10

き

幾何学的計測値…………… 16
 機械的視能障害…………… 30
 機械的障害…………… 28
 幾何光学…………… 4, 23
 危機管理…………… 3
 機器の安全管理…………… 17
 器質性精神疾患…………… 15
 器質的視能障害…………… 30
 拮抗筋…………… 22

気道の構造と機能…………… 12
 機能回復…………… 14
 機能性〈内因性〉精神疾患…………… 15
 機能的視能障害…………… 30
 基本的視能訓練…………… 10
 嗅覚の構造と機能…………… 13
 救急対応と処置…………… 20
 急性期…………… 14
 球面レンズ…………… 4
 橋…………… 12
 行政と制度…………… 19
 共同運動…………… 22
 共同筋…………… 22
 恐怖の心理…………… 29
 強膜…………… 16, 27
 強膜炎…………… 27
 業務の管理と運営…………… 2, 22
 挙筋機能…………… 5
 局所投与…………… 10, 18
 局所麻酔薬…………… 18
 記録…………… 20, 29
 禁忌…………… 29
 近見視力検査…………… 8, 24
 筋原性疾患…………… 15
 筋原性障害…………… 28
 近見反応…………… 9, 17, 25, 28
 近見反応異常…………… 9
 近見反応乖離…………… 6
 菌交代現象…………… 10
 近視…………… 23
 筋組織…………… 12
 筋電図(EMG)…………… 26
 筋の構造と機能…………… 12
 筋の興奮収縮連関…………… 22

く

隅角…………… 16
 隅角検査…………… 18, 25
 屈折…………… 4, 23
 屈折異常…………… 22, 28
 屈折異常弱視…………… 7, 29
 屈折矯正…………… 10, 23, 30
 屈折検査…………… 8, 17, 24
 グレア検査…………… 24

け

蛍光眼底撮影(フルオレセイン、インドシアニンググリーン)…………… 26
 形態覚…………… 4, 23
 形態覚遮断弱視…………… 7, 29
 外科系疾患…………… 15
 血液の構造と機能…………… 12
 血管新生緑内障…………… 8
 結像…………… 23
 結膜…………… 5, 16, 27
 結膜炎…………… 5, 27
 牽引試験…………… 25
 限界フリッカ値(CFF)…………… 24
 健康科学と栄養…………… 14
 健康管理と増進…………… 14
 健康診査…………… 19
 健康の基本的知識…………… 14
 健康の指標…………… 19
 検査機器の規格と構成…………… 17
 検査データの管理…………… 20, 24
 検査における責任…………… 20, 24
 検査に対する知識…………… 24
 検査への姿勢、意識…………… 24
 検査法とそのプランニング…………… 24
 検査目的に応じた検査機器の選択…………… 17
 原発開放隅角緑内障…………… 5, 27
 原発閉塞隅角緑内障…………… 5, 27

こ

光覚…………… 4, 23
 光学…………… 4
 広角眼底撮影…………… 26
 光学的計測値…………… 16
 光学的視能矯正…………… 30
 高額療養費制度…………… 2
 効果の判定…………… 29
 交感神経…………… 12, 17
 交感神経薬…………… 10, 18
 後期高齢者医療制度…………… 2
 抗菌薬耐性…………… 10
 口腔の構造と機能…………… 12
 高血圧症…………… 7

高血圧性眼底変化	7
膠原病	14
抗コリンエステラーゼ薬	10
虹彩毛様体炎	27
高次運動野	16
高次感覚野	16
高次視覚中枢	17
高次脳機能障害	14
公衆衛生総論	19
甲状腺	12
甲状腺機能亢進症	7
甲状腺眼症	7
交代性上斜位	7, 29
後頭葉〈視覚中枢〉	12
後頭葉の疾患	6, 27
高齢者	20, 24, 29
呼吸器疾患	14, 15
国際疾病分類	14
国際生活機能分類〈ICF〉	19
国民皆保険制度	2
固視検査	8, 17, 24
固視ずれ	22
固視微動	22
個人情報保護	2, 20
骨格筋	12
骨疾患	15
骨の構造と機能	12
根拠〈エビデンス〉に基づいた医療〈EBM〉としての視能矯正	22
コンタクトレンズ	23, 30
コンタクトレンズ検査	8, 17, 24
コントラスト感度	23, 24

さ

細隙灯顕微鏡検査	25
細胞の構造と機能	12
細胞の再生	14
催眠薬	18
三叉神経	17
残像検査	25
霰粒腫	27

し

視運動性眼振〈OKN〉	26
紫外線	4
視覚器	3
視覚系	12
視覚情報の基本	17
視覚心理学	23
視覚生理学	23
自覚的屈折検査	8, 24
視覚伝導路	17
視覚の成り立ち	23
視覚補助具の選定と指導	29
視覚誘発電位〈VEP〉	9, 26
色覚	4, 23
色覚異常	23, 28
色覚検査	17, 24
色覚検査表〈仮性同色表〉	24
色相配列検査	24
視機能	4
視器の病理	15
軸索	12
シクロペントラート塩酸塩	10
視交叉	12, 17
自己受容器	22
自己免疫疾患	14
視索	12, 17
支持組織	12
思春期	13, 29
視床下部	12
視神経	6, 12, 15, 16, 17, 27
視神経萎縮	7
視神経炎	6, 27
視神経管	16
視神経交叉	27
視神経交叉部腫瘍	6
視神経疾患	9
視神経症	6, 27
市町村保健センター	19
疾病	14
失明原因疾患	28
指導	29
シナプス	12
視能矯正	2, 22
視能訓練	10, 29, 30
視能訓練士	2, 19, 20, 22, 24

視能訓練士法	2, 19, 20
視能検査および視能矯正に用いる薬物の基本的知識	10, 18
視能検査機器の基本的知識	17
視能障害	14, 19, 22
視能障害児(者)の心理	29
視放線	6, 12, 17, 27
視野	4, 23
斜位	30
視野異常	23
社会医療制度	19
社会環境の変化	14
社会的問題	2
社会と医療	2
弱視	7, 28
弱視訓練	10, 30
視野検査	8, 17, 24
斜視	6, 28, 30
斜視弱視	7, 29
遮断薬	10
斜視特殊型	7, 29
視野闘争と抑制	22
視野の概念	23
遮閉試験	8, 25
収差	23
重症筋無力症	6
終末期	14
手術	23
手術筋の選択	30
受精から個体発生	12
守秘義務	2, 20
腫瘍	14
循環器疾患	14, 15
循環障害	14
障害者の心理	24
障害者の心理的、社会的側面	24
障害者の心理特性とケア	20
障害者の日常生活及び社会生活を総合的に支援するための法律〈障害者総合支援法〉	19
障害者への検査	24
障害者への対応	24
障害受容	19
障害に対する意識と心理	24
障害の基本的知識	14
障害の受容に至る過程	29
障害論	19

消化管の構造と機能…………… 12
 松果体…………… 12
 上眼窩裂…………… 16
 上眼静脈…………… 16
 上下斜視…………… 7, 29
 硝子体…………… 16, 27
 硝子体混濁…………… 27
 硝子体出血…………… 27
 上斜筋…………… 16
 小数視力…………… 4
 上直筋…………… 16
 小児科系疾患…………… 15
 小児期…………… 15, 29
 小児視能特性…………… 29
 小児心理の特性…………… 29
 小児の心理…………… 29
 小児の心理特性とケア…………… 20
 小児への対応…………… 24
 小脳…………… 12
 上皮組織…………… 12
 睫毛…………… 27
 睫毛乱生…………… 27
 職務倫理…………… 20
 ショック…………… 10, 18
 自律神経…………… 12
 視力…………… 4, 23
 視力検査…………… 8, 17, 24
 視路…………… 6, 27
 人格障害…………… 15
 神経筋接合部障害…………… 28
 神経系疾患…………… 14
 神経膠細胞…………… 12
 神経細胞…………… 12
 神経支配と中枢…………… 22
 神経症性障害…………… 15
 神経生理学…………… 12
 神経線維…………… 12
 神経組織…………… 12
 神経脱髄疾患…………… 14
 神経伝達物質…………… 12
 神経の構造と機能…………… 12
 神経変性疾患…………… 14
 人権…………… 20
 進行性病変…………… 14
 人口統計…………… 19
 人口問題…………… 19
 腎疾患…………… 14

心身医学的疾患…………… 15
 心身症…………… 14
 新生児…………… 13
 新生児期…………… 13
 心臓の構造と機能…………… 12
 人体の構造と機能…………… 3
 身体の成長と発達…………… 13
 身体表現性障害(解離性障害)…………… 7, 15, 28, 30
 腎、尿路の構造と機能…………… 12
 心理的評価…………… 24
 心理的問題…………… 2
 心理面の配慮…………… 2
 診療録…………… 3, 24

す

髄鞘…………… 12
 水晶体…………… 5, 16, 27
 水晶体屈折力…………… 4
 水晶体偏位…………… 27
 睥島…………… 12
 睥の構造と機能…………… 12
 ストレス関連障害…………… 15

せ

静止電位…………… 22
 正常眼圧緑内障…………… 5, 27
 生殖器…………… 12
 生殖器疾患…………… 14
 精神疾患…………… 14
 精神神経系疾患…………… 15
 精神発達…………… 13
 生体染色検査…………… 5, 25
 成長…………… 3
 静的視野…………… 4, 8
 静的視野測定法…………… 8, 24
 静的測定…………… 23
 静的立体視…………… 22
 青年期…………… 13, 15, 29
 生命表…………… 19
 生理光学…………… 23
 世界医師会リスボン宣言…………… 2
 赤外線…………… 4

脊髓…………… 12, 14
 脊髓神経…………… 12
 脊椎疾患…………… 14
 接遇…………… 3, 20, 24
 前眼部…………… 18, 25
 全屈折力…………… 4
 染色体…………… 12, 14
 全身疾患…………… 7, 28
 全身投与…………… 18
 前置レンズ検査…………… 25
 前庭平衡系の構造と機能…………… 13
 先天異常…………… 14

そ

増悪期…………… 14
 造血器の構造と機能…………… 12
 創傷の治癒…………… 14
 相対的瞳孔求心路障害…………… 6
 組織…………… 12, 19

た

第一次運動野…………… 16
 第一次感覚野…………… 16
 第一次視覚中枢…………… 17
 大虹彩動脈輪…………… 16
 退行性病変…………… 14
 対光反射…………… 9, 17, 25
 対光反射異常…………… 6, 28
 対光反射・近見反応乖離…………… 6
 対座法…………… 24
 胎児期…………… 13
 胎児の発育…………… 13
 代謝異常…………… 14
 代謝疾患…………… 14, 15
 体性感覚系の構造と機能…………… 13
 大腦皮質…………… 16
 他覚的屈折検査(波面収差解析を含む)…………… 8, 24
 脱臼…………… 27
 脱髄疾患…………… 14
 単一視力検査…………… 8, 24
 単眼運動とその法則…………… 22
 単眼複視…………… 4

胆道の構造と機能…………… 12

ち

チーム医療…………… 20
 注視野…………… 25
 中心暗点検査…………… 24
 中心性漿液性脈絡網膜症…………… 27
 中心フリッカ検査…………… 17, 24
 中枢処理機構…………… 16
 中枢神経の構造と機能…………… 12
 中毒…………… 10, 18
 中膜…………… 3
 超音波検査…………… 9, 26
 聴覚系の構造と機能…………… 12
 聴覚障害をきたす疾患…………… 14
 調節…………… 4, 17, 22, 23
 調節異常…………… 28
 調節検査(AC/A比含む)
 ……………… 8, 17, 24
 調節麻痺薬…………… 10
 直像鏡検査…………… 9, 25

て

点眼法…………… 10
 点眼薬…………… 18
 電気眼振図<ENG>…………… 9, 26
 電気生理検査…………… 9, 18, 26

と

動眼神経…………… 17
 瞳孔…………… 6, 28
 瞳孔間距離計測検査…………… 24
 瞳孔緊張症…………… 28
 瞳孔径測定…………… 25
 瞳孔径変化…………… 6
 瞳孔検査…………… 9, 18, 25
 透光体検査…………… 18, 25
 瞳孔反応…………… 17
 瞳孔不同…………… 6, 28
 倒像検査…………… 9, 25

動体覚…………… 22
 動的視野…………… 4, 8
 動的測定…………… 23
 動的測定法…………… 8, 24
 動的立体視…………… 22
 糖尿病…………… 8, 10
 糖尿病網膜症…………… 5, 27
 動脈硬化症…………… 7
 動脈硬化性眼底変化…………… 7
 兎眼…………… 27
 凸レンズ…………… 4
 ともひき筋…………… 4
 ともむき筋…………… 4

な

内科系疾患…………… 14
 内斜視…………… 6, 29
 内直筋…………… 16
 内分泌器官の構造と機能…………… 12
 内分泌疾患…………… 14
 内膜…………… 3

に

日常生活動作の援助指導…………… 19
 日常生活の不自由度…………… 19
 乳児期…………… 13
 乳児の生理…………… 13
 乳幼児視力検査<PL法を含む>…
 ……………… 8, 24

の

脳外傷…………… 14
 脳血管障害…………… 14
 脳梗塞…………… 7
 脳疾患…………… 14
 脳出血…………… 7
 脳腫瘍…………… 7, 14
 脳神経系疾患…………… 15
 脳神経(第Ⅰ～Ⅻ脳神経)…………… 12

脳(大脳、間脳、中脳、橋、延髄、
 小脳)…………… 12
 脳の可塑性…………… 14
 ノーマライゼーション…………… 2, 19

は

肺の構造と機能…………… 12
 白内障…………… 5, 8, 10, 27
 麦粒腫…………… 27
 発生…………… 3, 12
 発達…………… 3, 22
 発達障害…………… 15
 発達緑内障…………… 5, 27
 波動光学…………… 23
 はりあい筋…………… 4
 バリアフリー…………… 2, 19

ひ

光干渉断層計<OCT>…………… 9, 26
 光の性質…………… 4, 23
 非共同運動…………… 22
 微小斜視…………… 7, 29
 微小斜視弱視…………… 7, 29
 泌尿器疾患…………… 14
 肥満…………… 10
 病因と疾病の種類…………… 14
 病院における小児の心理…………… 29
 病因論…………… 14, 29
 病期…………… 14
 病気に対する意識と心理…………… 24
 病歴のとり方…………… 3, 24
 鼻涙管閉塞…………… 27

ふ

不安の心理…………… 29
 フィルタ…………… 4, 23, 30
 フェニレフリン塩酸塩…………… 10
 副交感神経…………… 12, 17
 副交感神経薬…………… 10, 18
 複視…………… 4, 22

副腎皮質…………… 12
 副腎皮質ステロイド…… 10, 18
 輻湊…………… 17, 22
 輻湊検査…………… 9, 17, 25
 不同視…………… 22
 不同視弱視…………… 7, 29
 不等像視…………… 22
 不等像視検査…………… 25
 ぶどう膜…………… 5, 16, 27
 ぶどう膜炎…………… 5, 27
 プリズム…… 4, 8, 23, 25, 30
 プリズム療法…………… 10
 フルオレセイン試験…………… 5
 フレア検査…………… 25
 分光視感効率<比視感度>…… 23

へ

平滑筋…………… 12
 閉瞼運動…………… 17
 並列視力検査…………… 8, 24
 偏光フィルタ…………… 25

ほ

報告…………… 20, 29
 房水…………… 17
 方法の選択…………… 29
 保健、医療、福祉、介護制度の
 特徴…………… 19
 保健医療福祉…………… 22
 保健所…………… 19
 ホルモンの種類と作用機序…… 12
 ホロプタ…………… 22

ま

末梢神経疾患…………… 14
 末梢神経の構造と機能………… 12
 マナー…………… 20
 麻痺性斜視…………… 7, 29

み

味覚系の構造と機能…………… 13
 未熟(児)網膜症…………… 6, 27
 ミトコンドリア…………… 12
 ミトコンドリア遺伝子………… 12
 ミラー…………… 23

め

眼…………… 12, 15, 17
 明順応…………… 23
 メタノール…………… 10
 免疫…………… 15
 免疫異常…………… 14
 免疫系の構成・機能…………… 12
 面接者の態度…………… 3, 24

も

網膜…… 3, 5, 16, 17, 23, 27
 網膜芽細胞腫…………… 6, 27
 網膜色素変性…………… 5, 27
 網膜症…………… 8
 網膜静脈閉塞症…………… 5, 27
 網膜対応…………… 22
 網膜中心静脈…………… 16
 網膜中心動脈…………… 16
 網膜電図<ERG>…………… 9, 26
 網膜動脈閉塞症…………… 5, 27
 網膜剥離…………… 6, 27
 網膜部位…………… 23
 毛様体小帯<Zinn小帯>…… 16
 毛様体動脈…………… 16
 模型眼とその名称…………… 23
 問題指向型システム…………… 3
 問題指向型診療記録…………… 3

や

薬物…………… 10, 18, 23
 薬理学的視能矯正…………… 30

ゆ

融像…………… 22
 融像検査…………… 25
 ユニバーサルデザイン…… 2, 19

よ

幼児期…………… 13

ら

乱視…………… 23

り

リスボン宣言…………… 20
 立体眼底撮影…………… 26
 立体視検査(深径覚の検査を含
 む)…………… 25
 リハビリテーション…………… 19
 両眼開放視力検査…………… 8, 24
 両眼共同運動…………… 22
 両眼視…………… 4, 22
 両眼視機能検査(網膜対応検査
 を含む)…………… 8, 17, 25
 両眼視機能測定法…………… 4
 両眼視訓練…………… 10, 30
 両眼視野…………… 22
 両眼複視…………… 4
 両眼離反運動…………… 22
 緑内障…………… 5, 10, 27

る

涙液…………… 17
 涙液検査…………… 18, 25
 涙液層…………… 17
 涙液層破壊時間<BUT>…… 25
 涙液分泌減少症…………… 5, 27
 涙器…………… 5, 16, 27

涙嚢炎…………… 27

れ

連合野…………… 16

レンズ…………… 4, 23

レンズメータ…………… 24

連絡体制管理…………… 20

ろ

老化…………… 3, 13, 15

老視…………… 23

老年期…………… 15

老年期疾患…………… 15

ロービジョン…………… 19

ロービジョンケア…………… 29

ローズベンガル試験…………… 5

